

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

1周年を迎えた当ファンドの運用状況を報告いたします



平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。
2018年1月22日に運用を開始した「モビリティ・イノベーション・ファンド（以下、当ファンドといいます。）」は、おかげさまで設定から1周年を迎えました。

本資料では、当ファンドの実質的な運用を担当する、メロン・インベストメンツ・コーポレーションのポートフォリオ・マネージャーからのコメントを基に、下記の項目についてご報告させていただきます。

当資料の内容

P2・・・設定来のパフォーマンスについて

P3・・・いま懸念されているリスクについて

P4-7・・・収益機会の拡大はこれから本格化

・P4 車のIT化

・P5 EV（電気自動車）

・P6 自動運転車

・P7 シェアリング

P8-9・・・展示会で見られた最新の技術

当ファンドのポートフォリオマネージャー（上から、ショーン・フィッツボーン、フランク・ゴークエン、バリー・ミルズ）

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

設定来のパフォーマンスについて

設定来の当ファンドおよび世界株式指数の推移

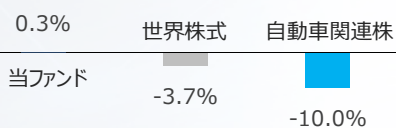
(2018年1月22日~2019年1月31日)



① 2018年前半

(2018年1月22日~2018年6月15日)

銘柄選択効果で市場を上回る

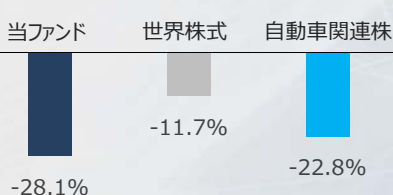


2月上旬の下落以降、当ファンドで組み入れていた銘柄の株価が堅調となり、当ファンドは市場を上回るパフォーマンスとなりました。

② 2018年後半

(2018年6月15日~2018年12月28日)

貿易摩擦の影響を受けて大幅下落

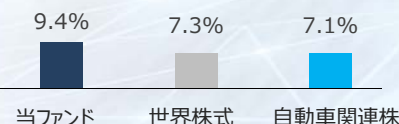


貿易摩擦の影響度合いが比較的大きいとされる自動車メーカーや自動車部品メーカーで業績の下方修正が相次いだことなどから、自動車業界に対する市場心理が悪化し、大きく下落しました。

③ 2019年1月

(2018年12月28日~2019年1月31日)

年明けは市場をアウトパフォーム



当ファンドでは、割安な状態が続いていた自動車関連株やテクノロジー関連株が反発し、相対的に大きな上昇幅となりました。

※世界株式：MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（円ベース）

※自動車関連株：MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックスの自動車・自動車部品産業グループ（円ベース）

出所：ブルームバーグのデータを基に、BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

いま懸念されているリスクについて

いま世界で懸念されている主なリスクについて、ポートフォリオ・マネージャーが当ファンドへの影響度が大きいと考える順に見解を説明させていただきます。

影響度 **大**



米中貿易問題

問題解決への圧力の高まりにより進展が期待

米政権は強硬姿勢を貫いていますが、彼らの本当の目的は世界に貿易障壁を作ることではありません。トランプ米大統領は選挙公約において通商問題、特に中国との貿易不均衡の解消を掲げているため、この実現のために強硬な姿勢を見せているとの見方もあります。

足下、米国経済は減速の兆しが見え始めていることから、トランプ米大統領にも貿易問題の早期解決への圧力が加わっています。

2018年のISM製造業景況指数
(期間：2018年1月～2018年12月)



トランプ米大統領が最も避けたいのは米国経済失速による非難を受けることであり、今年中には米中間で何らかの通商協定が成立すると考えています。



中国経済減速

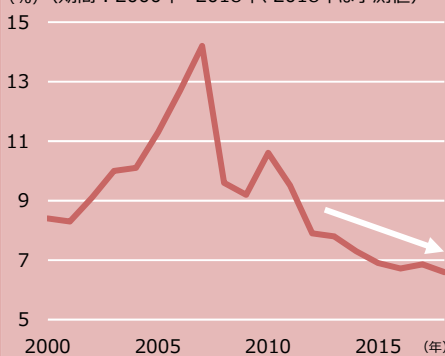
中国政府による景気刺激策に期待

世界の自動車販売に影響の大きい中国の経済減速は当ファンドにもマイナス材料となりますが、政府による減税や積極的な財政出動による景気下支えが期待されます。

2019年1月29日、中国政府は自動車を中心とする消費刺激策を発表しました。旧型の排ガス規制対応車や農村での小型車への買い替えに補助金を支給し、また、中古車取引に減税を実施することで、昨年に28年ぶりの前年割れとなった自動車販売の回復を目指します。

2017年末に小型車の自動車取得税の減税が打ち切りとなり、昨年は新車販売が落ち込みましたが、今回の消費刺激策の復活により、自動車販売や個人消費が押し上げられると思われます。

2000年以降の中国の実質GDP成長率
(%) (期間：2000年～2018年、2018年は予測値)



英国のEU(欧州連合)離脱

→無秩序なEU離脱に注意



商品価格の動向

→EV用電池素材の価格動向に注意
(リチウム、ニッケル、特にコバルト)



米政府機関一部閉鎖

→短期的な問題で影響は小さい

影響度 **小**

※ブルームバーグ、IMF（国際通貨基金）のデータを基にBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。



設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

収益機会の拡大はこれから本格化

「車のIT化」

車とつながるモノの範囲は更に拡大！

車がIT化することで、インフラとの通信や車同士の通信などが期待されていますが、最近では更に多くのモノと繋がることでより多様なサービスを可能にすることが期待されています。

コネクテッドカーで可能となる通信の例

インフラとの通信



- (活用例)
- ・道路情報板や信号情報の入手
 - ・赤信号を無視しようとするアラート

車との通信



- (活用例)
- ・前方車が急ブレーキを踏んだ情報をリアルタイムで受信し、事前に減速することで追突事故を防止

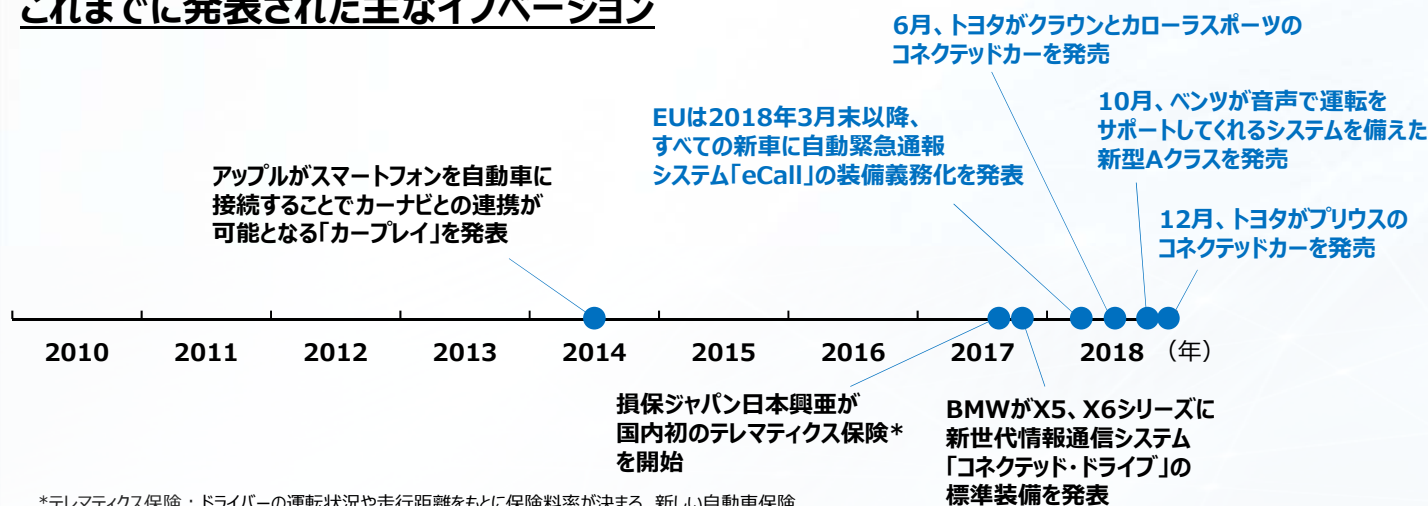
あらゆるモノとの通信



- (活用例)
- ・カメラやセンサーでは検知できない歩行者や自転車を通信で検知
 - ・家電の操作など

※上記はイメージです。

これまでに発表された主なイノベーション



※各発表時期は目安であり、地域や車種、サービスの種類等によって実際の時期と異なる場合があります。
出所：各種報道等を基にBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成（2019年1月時点）

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

収益機会の拡大はこれから本格化

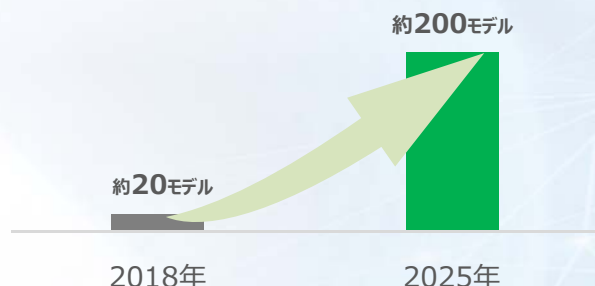
「EV（電気自動車）」

車種の増加が普及を後押し！

各国の環境規制への対応に加え、充電スポットなどのインフラ整備拡大、バッテリーコスト低下による低価格化などからEVの普及が拡大しています。

2018年に入ると、ジャガーやボルシェといった高級ブランド車からもEVが発売し始めており、消費者の選択の幅も広がりつつあります。

EV（電気自動車）の市販車モデル数の予想



スマートグリッドにも注目！

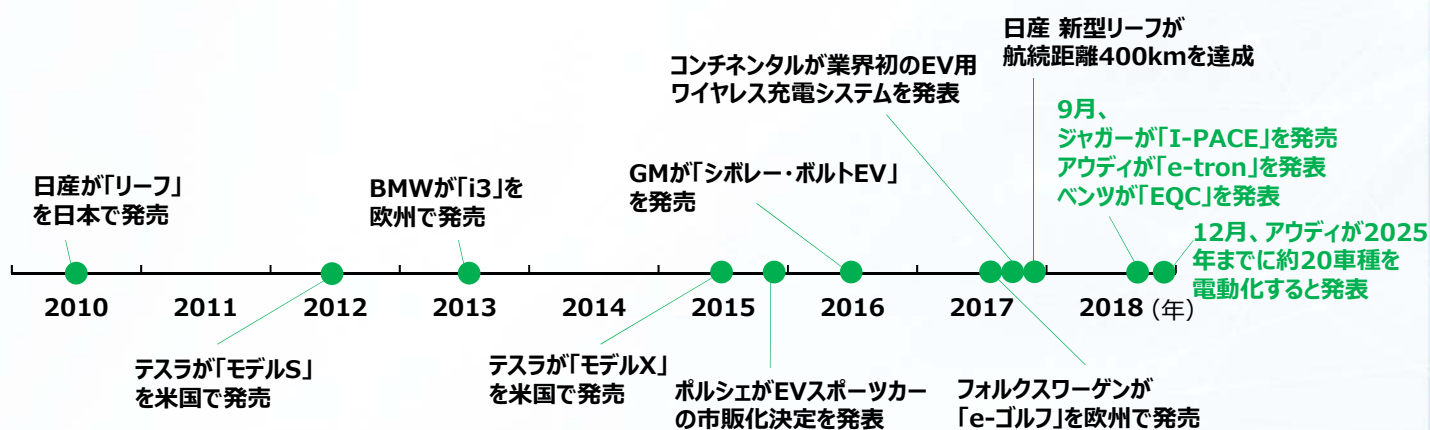
膨大な電力を要するEVが本格的に普及すると、夕方から夜間に電力需要が一気に集中するため、電力の効率的な配給が必要不可欠となります。

我々は、**電気の使用量と供給量を予測し、最適な電力供給を可能にするスマートグリッド関連の企業にも注目**しています。当ファンドでは、関連銘柄としてクアンタ・サービシーズやザイレムを組み入れています。（2019年1月時点）



↑ 2018年9月に日本で受注を開始したジャガー初のフルバッテリー電気自動車（BEV）「I-PACE」
画像出所：ジャガー・ランドローバー・ジャパン株式会社

これまでに発表された主なイノベーション



※各発表時期は目安であり、地域や車種、サービスの種類等によって実際の時期と異なる場合があります。
出所：各種報道等を基にBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成（2019年1月時点）

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目録見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

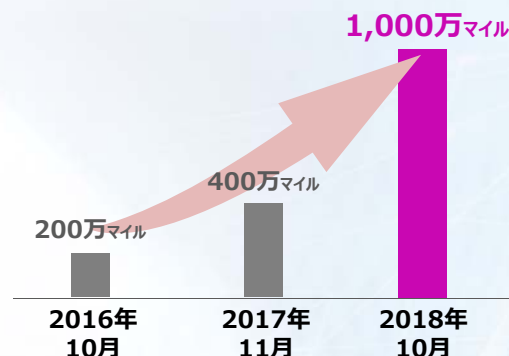
<モビリティ・イノベーション・ファンド>

収益機会の拡大はこれから本格化

「自動運転車」

自動運転の試験走行距離は急速に拡大！

ウェイモの自動運転車試験走行距離（累計）



↑ウェイモの自動運転試験走行車
画像出所：Waymo

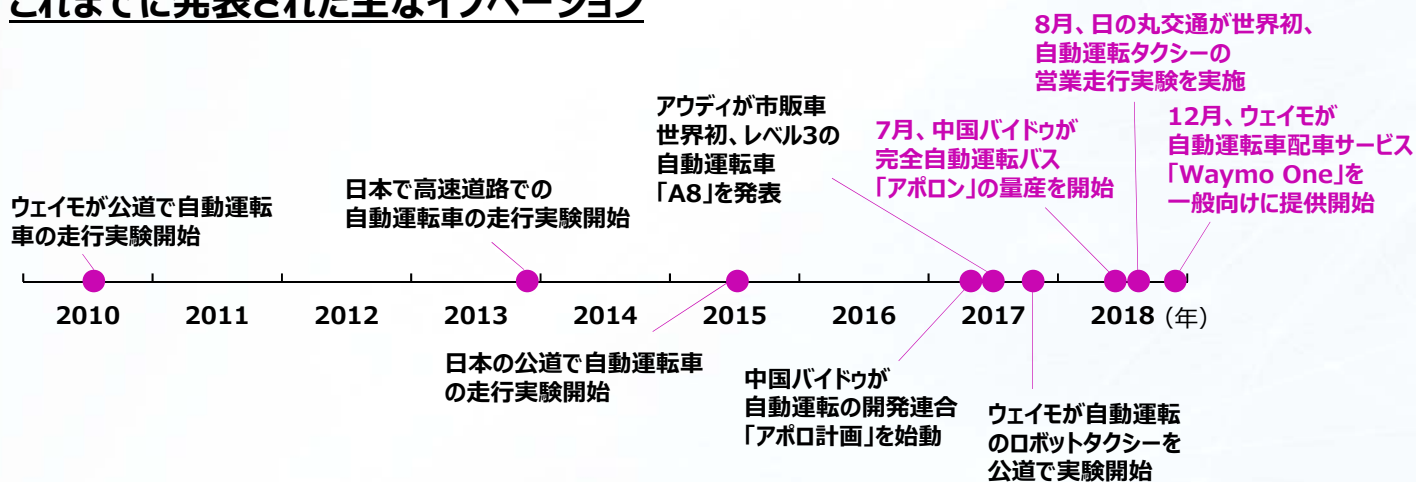
2018年は自動運転技術にとって飛躍的な進歩が見られた年となりました。

自動運転車の試験走行は急拡大しており、**アルファベット社傘下のウェイモの試験走行距離は1,000万マイル（1,600万km）を超えました。**この走行距離は、地球約400周分に相当します。

また、ウェイモは2019年1月、**自動運転用のソフトやセンサーを組み込むことで、他社自動車を自動運転車に改造する工場の建設を発表**しました。既に、フィアットやジャガーなどから数万台規模の受注を受けており、今後の収益拡大が期待されます。

自動運転車に対する消費者の意識は着実に高まっており、これらの技術を開発する企業の成長を長期的に下支えすると思われます。

これまでに発表された主なイノベーション



※各発表時期は目安であり、地域や車種、サービスの種類等によって実際の時期と異なる場合があります。
出所：各種報道等を基にBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成（2019年1月時点）

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目録見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

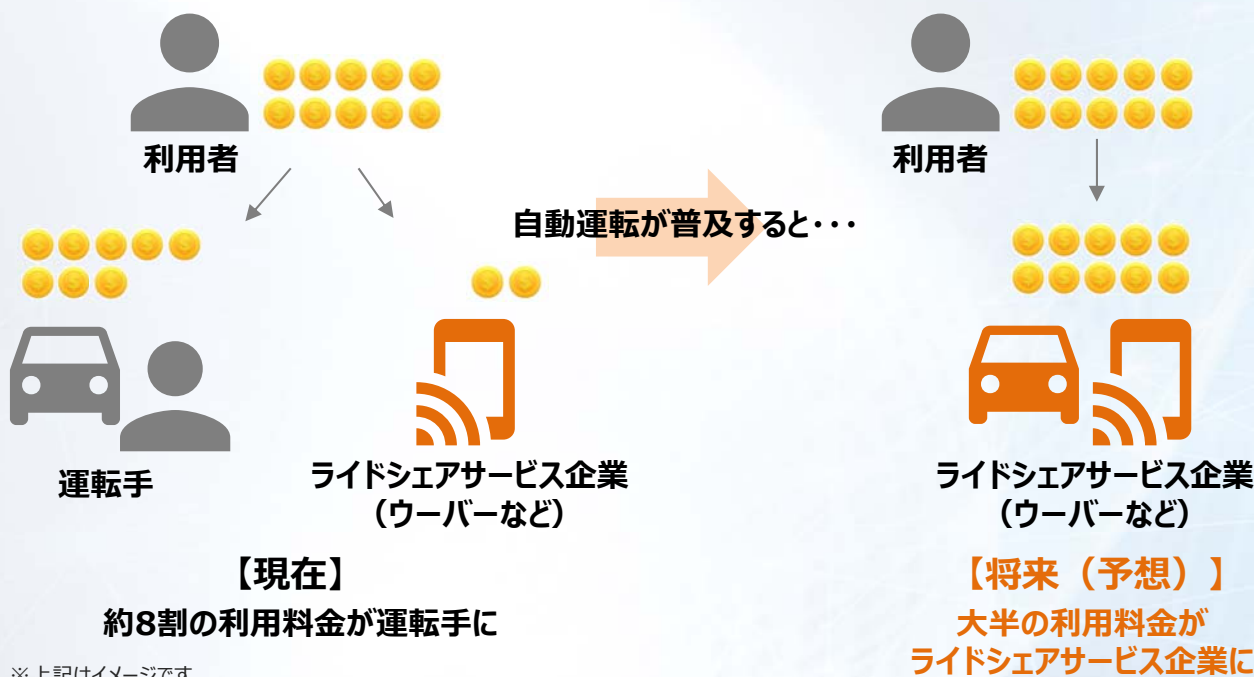
<モビリティ・イノベーション・ファンド>

収益機会の拡大はこれから本格化

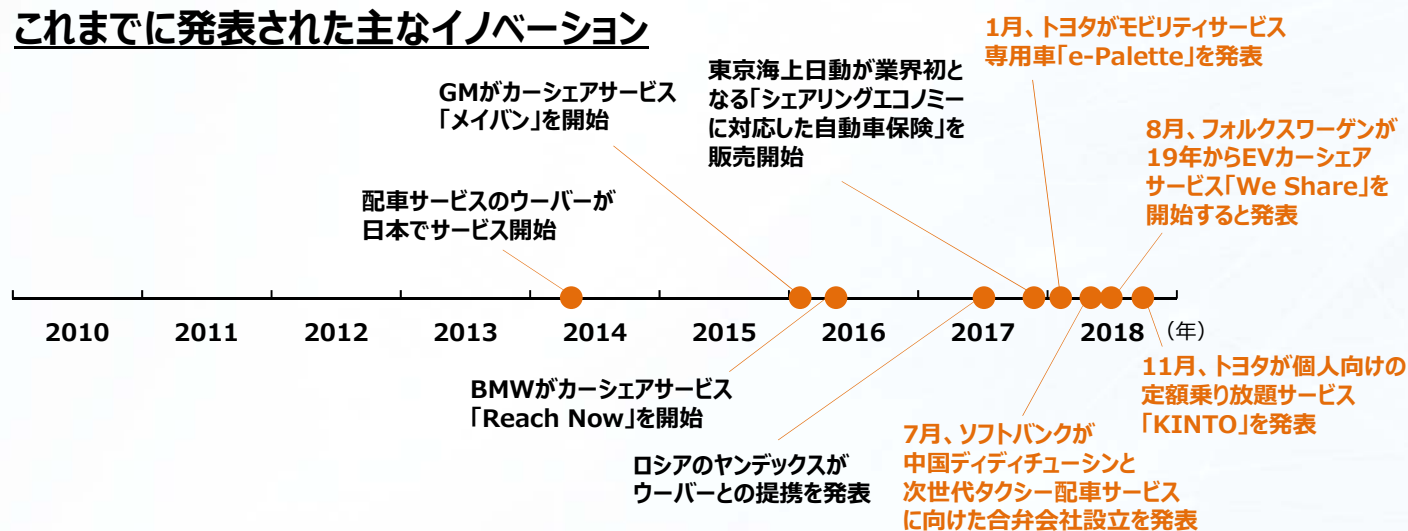
「シェアリング」

自動運転車の普及がライドシェア関連企業の収益拡大を後押し！

ライドシェアサービスの利用料金の内訳の目安



これまでに発表された主なイノベーション



※各発表時期は目安であり、地域や車種、サービスの種類等によって実際の時期と異なる場合があります。
出所：各種報道等を基にBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成（2019年1月時点）

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目録見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

展示会で見られた最新の技術

CES 2019 (米国:ラスベガス)

「CES（世界最大級の家電見本市）」では、モビリティ・イノベーションの進化を体感することができました。

日産自動車は最新のコンセプトカーを展示
(自動運転モードではハンドルやペダルを格納)



デンソーはMaaSシャトルのデモを実演



フォードの無人オンデマンド・デリバリーサービス用の車
(スタートアップのPostmatesと提携)



※画像出所：メロン・インベストメンツ・コーポレーションが撮影

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定来のパフォーマンスの振り返りについて

<モビリティ・イノベーション・ファンド>

展示会で見られた最新の技術(続き)

メルセデス・ベンツの完全自動運転EV（電気自動車）
（用途に応じてボディの交換が可能）

メルセデス・ベンツは伝説のレーサーと先端技術を融合させた
EV（電気自動車）コンセプトカー「ビジョンEVシルバーアロー」を展示



オートモーティブワールド 2019

（日本：東京）

日本でも「オートモーティブワールド2019」が1月に開催されました。
当ファンドの投資先企業（2019年1月末時点）による出展も見られました。



※画像出所：メロン・インベストメンツ・コーポレーション、BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が撮影
※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目録見書）の「投資リスク」をご覧ください。

＜ファンドの特徴＞

- ・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、日本を含む世界の金融商品取引所等に上場している自動車関連企業の株式に投資する。
- ・マザーファンドの実質的な運用は、メロン・インベストメンツ・コーポレーション*に運用の指図に関する権限を委託する。

*BNYメロン・グループの3社が統合し、2018年2月1日から業務を開始した運用会社です。同社は多様な金融商品や運用手法を、アクティブ運用からパッシブ運用までの幅広い投資戦略で提供しています。なお、同社は2019年1月2日をもって、「メロン・コーポレーション(英文名称:Mellon Corporation)」に社名を変更する予定でしたが、グループ内で再検討した結果、「メロン・インベストメンツ・コーポレーション(英文名称:Mellon Investments Corporation)」に変更することに決定致しました。

＜投資リスク＞

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として内外の株式への投資を行いますので、組入れた有価証券等の値動き(外貨建資産には為替変動もあります。)により、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。**当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。**預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「株式の発行企業の信用リスク」、「為替変動リスク」、「流動性リスク」、「特定業種・テーマの集中投資に関する留意点」などがあります。※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

＜お申込みメモ＞

商品分類	追加型投信/内外/株式	信託期間	2028年1月21日まで(2018年1月22日設定) ※委託会社は、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、信託期間を延長することができます。
ご購入単位	＜分配金受取りコース＞ (新規購入時)10万口以上1万口単位 (追加購入時)1万口単位 ＜分配金再投資コース＞ (新規購入時)10万円以上1円単位 (追加購入時)1万円以上1円単位 ※別に定める場合はこの限りではありません。	ご換金不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、換金申込の受付は行いません。詳しくは、SMBC日興証券にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休場日 ・ニューヨークの銀行の休業日
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。	ご換金代金のお支払い	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
決算日	毎年1月21日(休業日の場合は翌営業日)		

＜ファンドの費用＞

投資家が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に、購入口数、購入時手数料率を乗じて得た額です。 購入時手数料率はお申込代金／金額に応じて下記のように変わります。 分配金受取りコース:お申込代金に応じます。(お申込代金は購入価額に購入口数を乗じて得た額です。) 分配金再投資コース:お申込金額に応じます。(お申込金額はお申込代金に購入時手数料(税込)を加えて得た額です。) 1億円未満…………… 3.24%(税抜3.00%) 1億円以上5億円未満…………… 1.62%(税抜1.50%) 5億円以上10億円未満…………… 0.81%(税抜0.75%) 10億円以上…………… 0.54%(税抜0.50%) ※別に定める場合はこの限りではありません。
信託財産留保額	ありません。
投資家が信託財産で間接的に負担する費用	
当該ファンドの運用管理費用(信託報酬)	信託財産の日々の純資産総額× 年率1.7658%(税抜 1.635%) 運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期間の最初の6ヵ月の終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われますが、日々費用として計上されており、日々の基準価額は信託報酬控除後となります。
	マザーファンドの投資顧問会社への投資顧問報酬 委託会社の受取る報酬には、マザーファンドにおいて運用の指図権限の一部を委託している投資顧問会社への投資顧問報酬が含まれます。 投資顧問報酬額＝信託財産に属する当該マザーファンドの受益証券の時価総額×年率0.34%
その他費用・手数料	監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用、目論見書等の作成、印刷および交付費用ならびに公告費用等、その他の管理、運営にかかる費用、組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管費用等が、信託財産より支払われます。 ◆その他費用・手数料については、資産規模および運用状況等により変動しますので、料率、上限額等を表示することができません。

※上記費用の総額につきましては、投資家の皆様の保有される期間等により異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

金融商品取引業者名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券(外貨建証券は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

設定・運用は



BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第406号
[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 第二種金融商品取引業協会